

## 技能実習生、ベトナムからの受け入れ準備が進む

山梨中央建設協同組合(宮川武理事長)では、組合設立10年目を迎える節目の年に技能実習生をベトナムから受け入れる。

県内の建設事業者4名で平成18年8月に設立された当組合は、組合員の経営体質強化のため共同



面接に臨む応募者

購買事業によるコスト低減を図りながら、建設業界が慢性的に抱える共通課題に取り組んできた。

昨年からは組合の共同事業をさらに拡充するため、新規組合員の加入促進を行い、10社となった5月には、外国人技能実習生共同受入事業の実施に向けた定款変更の認可を受け、受け入れのための準備を進めてきた。

当組合では当初、中国からの受け入れを計画していたが、経済情勢の変化や外交問題などにより、有能な人材の受け入れが困難なことから、ベトナムからの受け入れを決め、日本に活動拠点を持つ複数の送り出し機関を理事会や定例会に招き、懇談を通じて受入体制の研究と検討を重ねて来た。

昨年9月には、宮川理事長ほか組合員6名が、ベトナムのハノイを訪れ、送り出し機関となるフォアンロン人材開発株式会社で技能実習生の選考面接



理事長と理事が面接を行った

試験を行い、10人の選考をおこなった。

組合では、まず4社が先行して、型枠・鉄筋・防水施工を職種とした技能実習生を受け入れる計画で、3月末に在留資格認定証明書が交付され、現在、入国に向けての手続き中。早ければ5月中旬に当組合の外国人技能実習生の第1期生が誕生し、組合員事業所での本格的な受け入れがスタートする。